

2016年8月吉日

立川三田会
会長 大石 敏雄様

慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団三田会
会長 吉川 信男



拝啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、当三田会の合唱部門であります慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団は、本年12月18日（日）府中の森芸術劇場どりーむホールにて、社会福祉法人日本点字図書館主催のチャリティーコンサートに盟友稲門グリーンクラブと共に出演する運びとなりました。

「早慶歌合戦」のテーマの下、前半では両団がそれぞれに合唱組曲を歌い、後半では塾員の皆様が良くご存知の、両校のカレッジソングの競演もあります。お楽しみいただける内容ですので、ぜひご来場いただきますようご案内申し上げます。総合司会は、稲門グリーンクラブメンバーの柿沼郭NHKアナウンサーです。

本コンサートは、ワグネル三田会として些かなりとも社会貢献ができれば、との考えで取り組んでおります。貴三田会の皆様にご吹聴いただければ、真に有難く存じます。追加のチラシやチケットのお申込は、主催者の日本点字図書館にお願い致します。

(03-3209-0241 nitten@nittento.or.jp 総務課)

貴三田会を始めとし多摩地区三田会の皆様にご連絡させていただく予定ですが、早稲田側も地区稲門会に協力を要請するとのことです。カレッジソングの交換では、多くの塾員の皆様の応援も頂戴できればと願っております。

末筆ながら、貴三田会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具

三田会事務局 162-0067 東京都新宿区富久町16-8-306 テン・クエスト(株)内
吉川 信男

TEL 03-3354-1505 FAX 03-3350-0916

yosil@triton.ocn.ne.jp

(仔)

第14回 本間一夫記念 日本点字図書館チャリティコンサート

コーラスの
饗うたげ宴

早慶歌合戦



VS



2016年**12月18日** (日曜日)

開場：11:00 / 開演：12:00

全席自由：2,000円

小学校入学前のお子様のお入場はご遠慮ください

メンバーズ会員割引対象公演 **M**

**府中の森芸術劇場
どリーむホール**

〒183-0001 東京都府中市浅間町 1-2
代表電話：042-335-6211
京王線 東府中駅北口より徒歩 7分



■ 出演：稲門グリークラブ
指揮：佐藤 拓 / ピアノ：大室晃子
慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団
指揮：須田和宏 / ピアノ：赤塚伸子

■ ゲスト出演：天羽明恵 (ソプラノ)
■ 司会：柿沼 郭 ほか

■ 演奏曲目(予定)
早慶：ガウデアムス
早：水のいのち / カリンカ・アカシヤの径 / 応援歌 (紺碧の空 他)
慶：トスティ歌曲集 / 君といつまでも・時代 / 応援歌 (若き血 他)



©Akira Muto

- 主催：社会福祉法人 日本点字図書館 ●共催：公益財団法人 府中文化振興財団 府中の森芸術劇場
- 後援：社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団 / 東京新聞社会事業団 / 公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団 / 社会福祉法人 読売光と愛の事業団
- 協賛：朝日生命保険相互会社 / 株式会社ラビット / 株式会社フォーラムエンジニアリング / 國稀酒造株式会社

お申し込み・お問合せ

チケットふちゅう：042-333-9999 (10:00~18:00) ※劇場休館日は休業

チケット net.：(24 時間受付) パソコン <http://tickefunet.pia.jp/> / モバイル <http://m.pia.jp/tickefunet/>

日本点字図書館：03-3209-0241 (9:00~17:00) ※休館日を除く



本間一夫と最北の酒蔵

生い立ち

日本点字図書館の創立者 本間一夫は1915(大正4)年北海道の日本海をのぞむ増毛町の裕福な商家に生まれました。一夫の祖父 本間泰蔵は裸一貫で佐渡島から出て、呉服雑貨業、漁業、醸造業(国稀酒造)、海運業のほか、不動産業、倉庫業を興し現在の総合商社に匹敵する事業を展開する丸一本間合名会社を経営するに至った人物でした。

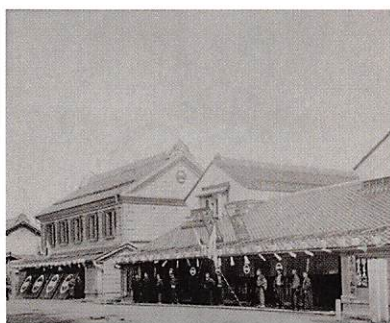
一夫は1歳で両親と死別し子供のいない伯父夫婦の養子となり、大きな屋敷で祖父や養父母、大勢の使用人に可愛がられ、本間家の後継者となるべく大切に育てられました。絵本が好きだった彼のために高価な絵本が取り寄せられ、一夫は珍しい動物や外国の風景などが描かれた絵本を飽きることなく眺める日々を過ごしました。そんな彼に思いがけない不幸が訪れたのは5歳の冬でした。重い脳膜炎を患い一命を取りとめましたが見力を失ってしまいました。諦めきれない家族は名医を求めて東京の病院に一夫を入院させますが、二年間の治療の甲斐なく視力が戻ることはありませんでした。



1919(大正8)年頃の本間一族と使用人たち。中央が泰蔵。その右が一夫をはさむ養父母



「丸一本間」の新造船、留萌丸の進水式。
1907(明治40)年の小樽にて



明治30年頃の店頭風景

点字との出会い

13歳になった一夫は人生を自からの力で切り拓く決意で函館盲啞院に入学しました。そこで点字と出会い、人の助けを借りることなく好きな本が読めることに感銘を受けました。しかし当時の点字本の多くは、盲人が将来仕事に就けるよう針灸の資格に関するものばかりで、知識への興味が尽きない一夫は次第に不満を募らせました。

そんな時、一夫は盲人の父と呼ばれる好本督が書いた本によりロンドンにある世界最大な点字図書館の存在を知り、日本にも点字図書館をつくることを決意しました。数々の困難を乗り越え、一夫のつくった日本点字図書館はその後わが国最大の点字図書館となり、現在に至っています。

増毛での活動

戦時中、大事な点字本を戦火から守るため故郷の増毛に疎開した一夫は、国稀酒造に居を構え、そこから全国の視覚障害者への点字図書への貸し出しを続けました。一夫が暮らした部屋は今も当時のたたずまいを残しています。大八車に本を山積みにし郵便局へ何度も往復する一夫の姿がありました。

終戦を迎え、東京へ戻り、一夫は日本点字図書館の発展に生涯を捧げました。終生ふるさと増毛を愛し、子供時代の思い出を懐かしそうに語りました。

北海道産酒造好適米「吟風」を使用。純米酒らしいこくがあり、適度な酸味もあり爽やかな後味です。料理を引き立てる中辛口です。



純米 吟風国稀
(720ml)
1,234円



国稀酒造株式会社
〒077-0204 北海道増毛郡増毛町稲葉町1丁目17番地
TEL.0164(53)1050
<http://www.kunimare.co.jp/>



重要文化財 旧商家丸一本間家
〒077-0205 北海道増毛郡増毛町弁天町1丁目27番地
TEL.0164(53)1511
開館期間：4月下旬～11月上旬 毎週木曜定休(7・8月は無休)